

今日のトピック インドの金融政策は据え置き、インフレ見通しを下方修正 経済は良好、改革は進展。資金流入が続こう

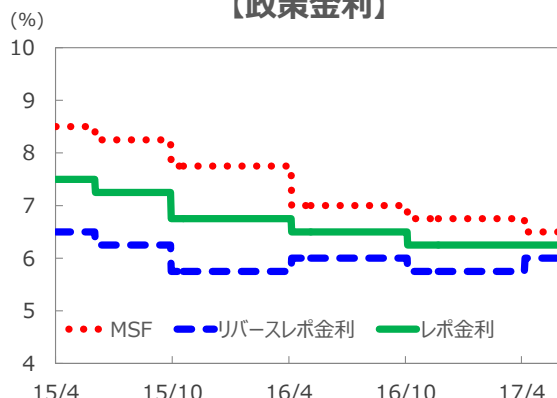
ポイント1 政策金利を据え置き 市場の予想通り

- インド準備銀行（中央銀行、以下RBI）は6月7日の金融政策委員会で、市場の予想通り、政策金利（レポ金利）を6.25%に据え置きました。

ポイント2 インフレ見通しを下方修正 金融政策スタンスは中立維持

- 4月の消費者物価上昇率は前年同月比+3.0%と、食品価格の下落などから下振れ、16年11月以降6か月連続で物価目標の+4.0%を下回っています。RBIは、インフレ率の見通しを下方修正しました。2017/18年度前半を4月時点の+4.5%から+2.0~+3.5%とし、年度後半は+5.0%から+3.5~+4.5%へ引き下げました。
- 声明文の内容や、会合後の記者会見でのパテル総裁らの発言によると、前回（4月）よりもRBIのインフレ警戒姿勢はやや弱まったと見られます。
- ただし、RBIは、原材料や賃金、輸入コストなどインフレの動向を見極める必要があるとし、金融政策スタンスについて中立姿勢を維持するとしています。
- RBIの金融政策据え置きを受けた7日の市場は、インドルピー、株式、債券市場とも堅調な動きでした。

【政策金利】

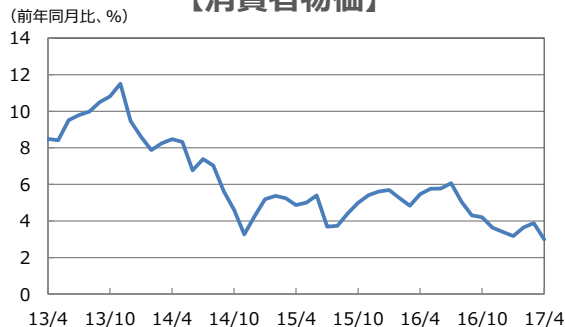


(注1) データは2015年4月1日~2017年6月7日。(年/月)

(注2) MSFは、Marginal Standing Facility (貸付ファシリティ)の略で、コールレートの上限とみなされます。

(出所) Bloomberg L. P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【消費者物価】



(注) データは2013年4月~2017年4月。

(出所) CEICのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 インドへの資金流入が続く見込み

- インド経済は、高成長の持続が見込まれています。RBIによれば、経済成長率を表す粗付加価値(GVA)成長率は2016/17年度の+6.6%から、2017/18年度は+7.3%へ加速する見通しです。
- 良好な経済、インフレ環境に加え、7月に導入予定の物品サービス税(GST)の税率が固まるなど、経済改革が着実に進んでいることが評価され、インドの株式市場や通貨ルピーは堅調に推移しています。今後もインドへの資金流入は続きそうです。

ここも
チェック! 2017年6月 1日 インドのGDP成長率 (2017年1-3月期)
2017年5月18日 インドの経済・市場動向 (2017年5月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。